

平成31年3月7日
交通政策審議会
第74回港湾分科会
資料1-5

港湾管理者:横浜市

③山下ふ頭再開発への対応[山下ふ頭地区・本牧ふ頭地区]

山下ふ頭再開発(MICE機能導入、クルーズ船受入等)に伴い、物資補給岸壁を貨客併用岸壁に変更、タグボート等の小型船だまりの移転(山下ふ頭地区→本牧地区)を位置付け

②国際フィーダー機能の向上[本牧ふ頭地区]

外航コンテナ船と内航コンテナ船の接続性を向上させるため、内航コンテナ船用岸壁を新規に位置付け

①コンテナ船の更なる大型化への対応[新本牧ふ頭地区]

コンテナ船の更なる大型化に対応するため、コンテナバ岸壁を延伸(水深18m、延長800m → 1,000m)

④大型クルーズ船への対応[大黒ふ頭地区]

大型クルーズ船の受入環境整備のため、完成自動車を扱う岸壁を貨客併用として位置付け



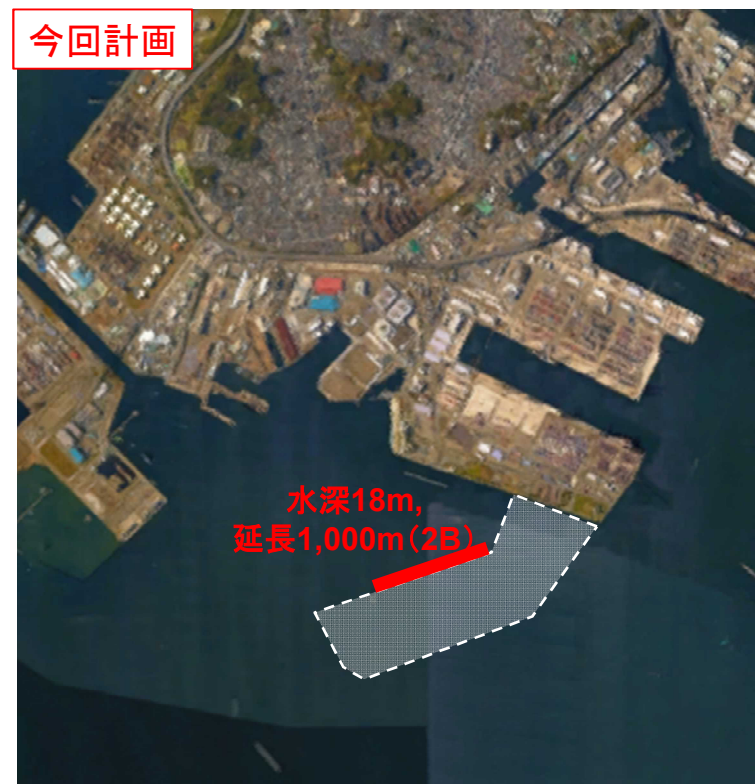
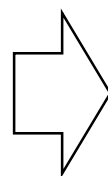
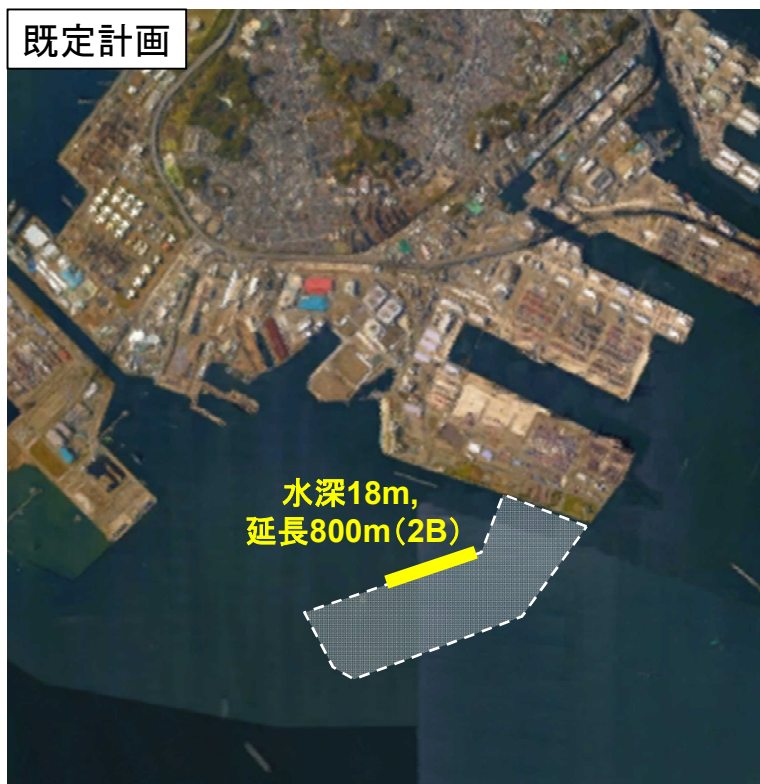
①コンテナ船の更なる大型化への対応[新本牧ふ頭]

【計画変更のポイント】 新本牧ふ頭地区

- 近年、コンテナ船社のアライアンスの再編^{※1}やコンテナ船の大型化^{※2}が進展。
 - ⇒ 新本牧埠頭のコンテナ取扱機能を強化(岸壁を800mから1,000mへ延伸)することで、国際戦略港湾への集貨を強化するとともに、北米・欧州等への国際基幹航路の寄港を維持・拡大する。

※1:2015年末以降、アライアンスの枠を超えた船社の再編の発表が相次ぎ、2016年5月に邦船三社を含む「ザ・アライアンス」の結成が発表される等、2017年4月以降は三大アライアンス(2M, オーシャンアライアンス、ザ・アライアンス)に再編。

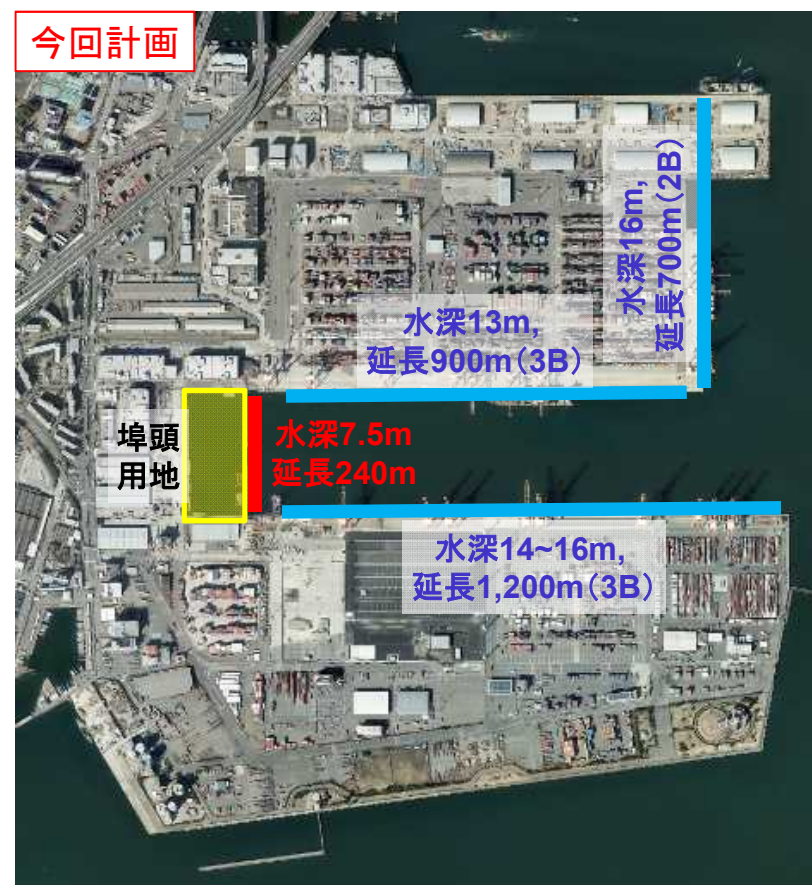
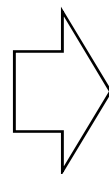
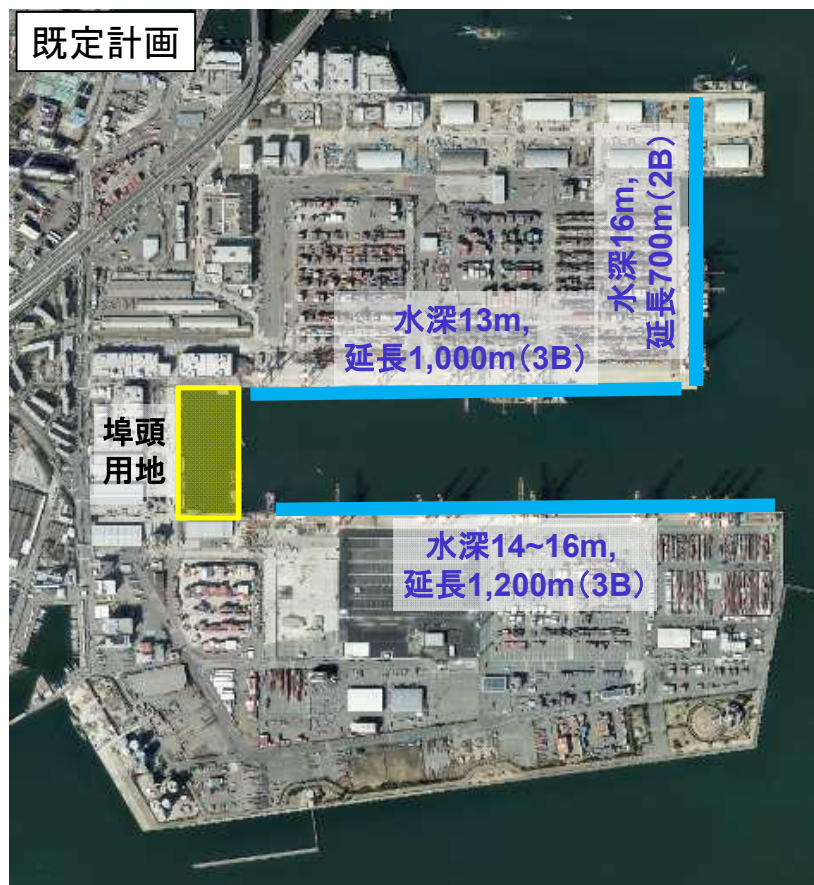
※2:岸壁水深18mが必要な船舶の寄港が増加(H26:2回、H29:54回)しており、船社ヒアリングによると今後も大型化が進む見込み。



②国際フィーダー機能の向上[本牧ふ頭]

【計画変更のポイント】本牧ふ頭地区

- 本牧ふ頭では、国際フィーダー航路をはじめ外内貿コンテナ船の寄港増加等により、滞船が発生。
- ⇒新たに内航コンテナ船用の岸壁(水深-7.5m, 延長240m)を計画することで、滞船を解消し、ふ頭全体の利用効率化によって国際フィーダー機能を強化する。



③山下ふ頭再開発への対応(クルーズ受入等)[山下ふ頭地区・本牧ふ頭地区]

【計画変更のポイント】 山下ふ頭地区・本牧ふ頭地区

- 平成27年9月に「横浜市山下ふ頭開発基本計画」が策定され、現在、上屋の解体・移転が順次進められているところであり、平成31年には再開発事業者の公募に向けた手続きが開始される予定。
- ⇒クルーズ客船の受入やMICE機能の導入に伴う大型展示品(鉄道車両や大型の建設機械等)等の貨物取扱のため、既存施設を活用して貨客併用岸壁を計画。あわせてタグボートの係留機能を本牧ふ頭に移転。



上屋の解体状況 (H30.3撮影)

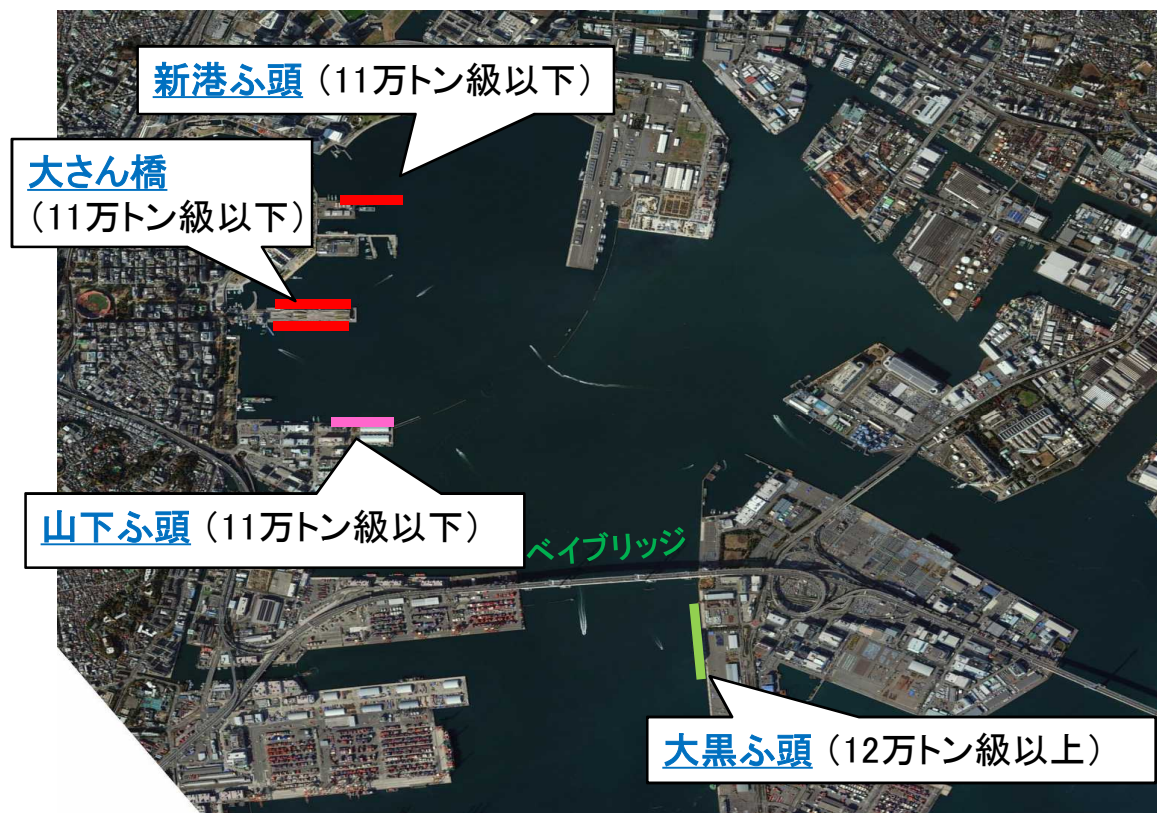


上屋の解体状況 (H30.3撮影)

④ 大型クルーズ船への対応[大黒ふ頭地区]

【計画変更のポイント】 大黒ふ頭地区

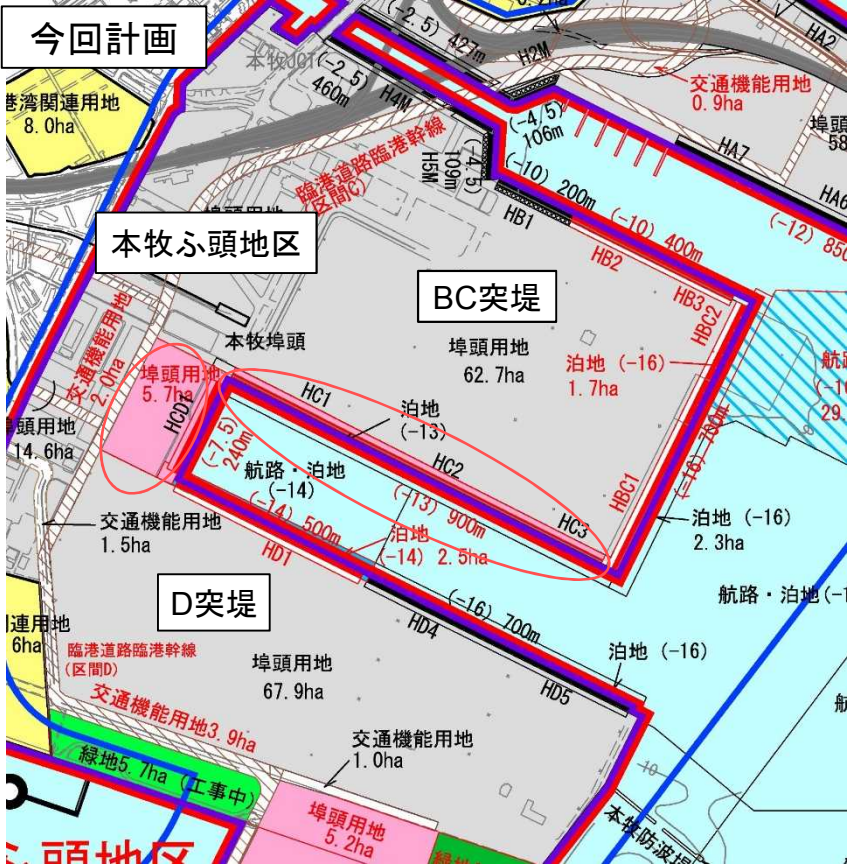
- 現在、ベイブリッジを通過できない超大型クルーズ船(概ね12万トン以上)について、大黒ふ頭の貨物取扱岸壁を活用して暫定的に受け入れているところ。クルーズ船社からは、大黒ふ頭への更なる寄港要請がある。
- ⇒ 大黒ふ頭の貨物岸壁の一部について貨客併用岸壁に位置付けを変更し、更なるクルーズ拠点機能の強化を図る。



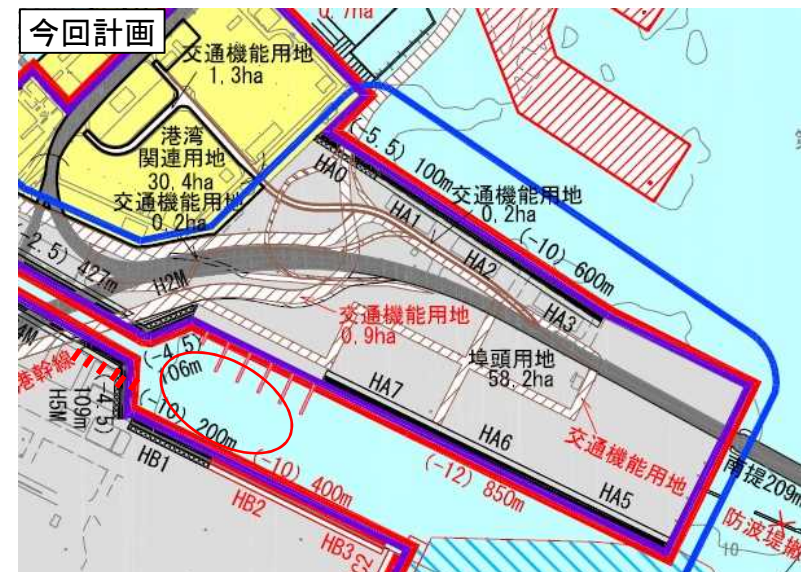
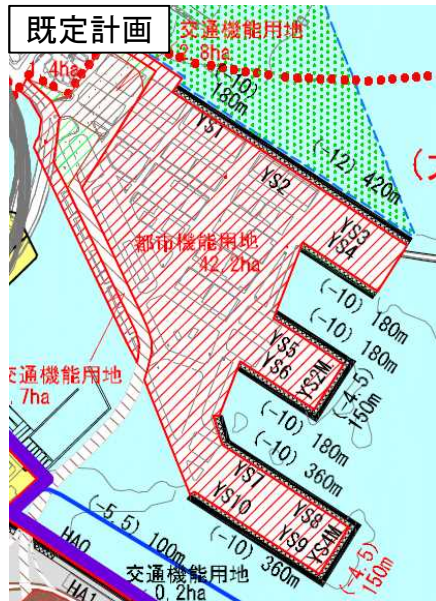
港湾計画の内容[新本牧ふ頭]



港灣計画の内容[本牧ふ頭]



港湾計画の内容[山下ふ頭地区・本牧ふ頭地区]



港湾計画の内容[大黒ふ頭地区]

